



茨城のスポーツ少年団

第31号 発行／平成23年3月28日 編集／財団法人茨城県体育協会茨城県スポーツ少年団

TEL 029-226-9972 FAX 029-226-9973 URL <http://www.ibaraki-sports.or.jp/ibarakiken/>



スポーツ少年団駅伝大会 (平成22年11月27日(土) 笠松運動公園陸上競技場・周回コース)

平成三十一年度 所感

茨城県スポーツ少年団

平素より、各市町村指導者

並びに関係者の皆様には、本県スポーツ少年団の諸事業に対し多大なるご支援、ご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年度のスポーツ少年団各事業につきましても、皆様方のご協力により滞りなく推進することができました。

また、スポーツ少年団活動の基盤となる登録状況につきましても、団員数が若干の減少があったものの、昨年同様の高い登録数を維持することが出来ました。

その一方で、少子・高齢化の進展、核家族化、生活の利便化等、子供達を取り巻く社会環境の大きな変化は、様々な問題を生じさせています。

しかしながら、子供達が心も身体も健康に育ち、笑顔のある生活を送ってほしいとの願いは、これからも変わることはないと思います。

そのような中、日本スポーツ少年団では、平成二十四年度を目的に新たな育成5か年計画を策定予定で、これからのスポーツ少年団のあり方、進むべき方向性が示されることとなります。

スポーツに取り組みもうとする全ての子供達のため、スポーツ少年団に関わる全ての人々が一丸となり、スポーツ少年団の充実・発展及び諸課題の解決に取り組んでいくことが重要になってくると思われまふ。

今後とも関係各位の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

指導者協議会運営委員会

委員長 仮屋 茂

指導者協議会運営委員会では以下の項目について再確認し、指導者への期待を申し上げます。

一、児童数に占める団員のスポーツ少年団加入率を四割程度にしたい(現在は約二割)

二、指導者の資格保有率を五十パーセント以上にしたい

三、リーダーの養成

四、団塊世代をうまく活用する

五、過激な指導の防止

六、楽しいスポーツ作り

七、総合型スポーツクラブ作り

以上の項目を達成するため、指導者研修会、女性フォーラム等の研修会へ多くの指導者に参加していただき、多くの事を学ぶ機会作りをしていきます。

指導者の皆様が情報交換でき、資質の向上が図れば幸いです。

スポーツ交流委員会

委員長 関 仁一

バレーボール競技では2つの大きな交流事業を実施しています。関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会(県大会は毎年七月第一土曜日、日曜日に日立市内体育館で実施しています。参加団数は七十九団ですが、県南・県西地区の団員達は試合終了後に、日立の海で磯遊びをすることを大変楽しみにしています。

上級リーダー指導委員会

委員長 吉澤 好一

近年、全国的に団員数の減少が続いておりますが、本県も例外ではありません。平成七年に発足した高校生以上で組織しているリーダー会でも会員が集まらず、リーダー会活動も減ってきております。こうした中でも登録している会員は年二回行っているジュニアリーダースクールや、夏休みに行う茨城県スポーツ少年団大会(野外活動)では、参加した小学生・中学生団員のリーダーとして寝る間も惜しんで活躍しています。また、関東各都県持ち回りで行うリーダー研究大会などにも参加しています。平成二十四年度には本県を会場として関東ブロックスポーツ少年団大会が開催されます。大会を成功させるには多くのリーダー会員が必要になりますので、指導者の先生方のご理解ご協力をお願い申し上げます。

普及・広報委員会

委員長 鈴木 孝子

茨城のスポーツ少年団

会報は回を重ねて三十一号の発行となりました。平成二十一年度より年二回発行から一回となりましたが、一人でも多くのスポーツ少年団関係者、特に指導者の先生方に読んで頂けるよう取り組んで参りました。内容は年間の行事報告・感想等ですが、この会報により県スポーツ少年団の活動が分かると同時に指導者間のかけはしになればと思います。当委員会ではこれからも皆様方の御意見、御要望を取り入れ、魅力ある会報で有りたいと思っております。

平成22年度

日本スポーツ少年団

表彰盾授与式

9月19日
常陸太田市

受賞市町村

日立市スポーツ少年団

受賞指導者

橋本 五郎(ひたちなか市)
西村 和文(日立市)
平山 武夫(行方市)
今泉 源司(行方市)
吉村 明(行方市)



受賞の言葉

塙山スポーツ少年団

西村 和文

平成二十二年度の日本スポーツ少年団表彰楯を授与していただき大変ありがとうございます。また、茨城県指導者研修会の会場で、たくさんの皆様の祝福を受けましたこと、身に余る光栄ございました。受賞者五名を代表しまして紙面を借り厚くお礼申し上げます。

このたび受賞を受けましたわれわれは、このことをゴールとしてとらえるのではなく、新たなスタートの気持ちで、スポーツ少年団の理念に立ち返り、子どもたちの指導に努めていきたいと思えます。

そして、昨今の学校における子どもの体力低下やいじめ・不登校の問題も、基本は協調性のある心身ともに健康な子供たちを育てることにあり、われわれスポーツ少年団の指導者が地域で大きな役目を背負っていることを、再確認し、さらなる精進をしていきたいと思えます。

最後に、この賞を受けるにあ



たつてご指導をいただいた諸先輩方、日ごろの少年団活動にご協力をいただいた皆様方に感謝するとともに、皆様方のますますのご活躍を祈念いたしまして、受賞のお礼の言葉とさせていただきます。

平成22年度

スポーツ少年団

指導者研修会

9月19日
常陸太田市

常陸太田SUNSMINIバスケットボールスポーツ少年団
塩原 恵子

平成二十二年九月十九日常陸太田市のときわ路にて指導者研修会が行われました。この地域は太田巨峰で知られ帰りには買い求められた方もいるようです。今年度も指導者の為を考えた、工夫のある研修会になりました。午前中は岩淵仁先生の講演があり、疲労回復には次の四つの柱があるということがわかりました。

- 一、適度な運動、スロージョギングは遅筋を使うので長時間走っても疲れない体を作る。
- 二、疲労後のケアは、体を温めるお風呂がおすすめです。
- 三、睡眠、特に子供はノンレム睡眠が集中発生する午後十時から午前二時に必ず寝ているようにする(寝る子は育つ)。
- 四、体温を上げる食べ物(特にごはん、豆類)を食べる。

今も小学生から高校生を指導し名選手を送り出しているとのことです。



午後からの分科会「スポーツ少年団の現状と指導者のありかた」では、どの班も団員数減少は議論の中心であり、今後の課題と思われれます。指導協、指導者、母集団等多方面の方と話が出来て参加してよかったですと思える日になりました。

もっと多くの指導者が参加して資質の向上を図ってもらい、そして信頼、尊敬される指導者として、少年団を支えるよう勉強しなくてはと改めて思いました。

有意義な一日をありがとうございました。

平成22年度

スポーツ少年団 女性指導者フォーラム

1月16日
行方市



大野野球スポーツ少年団

二方 悦子

初めてフォーラムに参加させて頂きました。指導者ではなく父兄の立場として感想を書かせて頂きます。

中村きよみ先生の講演は、たいへんすばらしく心に残る言葉がいくつもありました。その中のいくつかです。

・きつい練習は誰でもやる。そこからがんばるのが本当の練習
・他人の注意は自分の事だと思っ

て聞きなさい。
我が息子も小三から少年団にお世話になっていますが、まだこの言葉の様に練習に打ち込ん



ではいけません。「勝つこと！」も大事だと思いますが、日々の練習の中で得るものは今後の人生で役立つ事が多々あるように思います。家庭では学べないことが少年団に入団する事によって身につけ成長していきます。

午後からのディスカッションでは指導者及びそれを組織する市町村のみならずいろいろな御苦労されていることも分かりました。家庭と仕事を両立し、ボランティアとして指導して下さっている方々に感謝申し上げます。「夢は正夢」世界を目指した先生の精神を親子で学び頑張りたいと思いました。

平成22年度

ジュニアリーダースクール

第1回
六月十九日～二十日
県立中央青年の家 土浦市

水戸レイズスポーツ少年団

斎藤 岳弥

ぼくは、ジュニア・リーダースクールに行き、初めて知った事があります。それは、スポーツ少年団の目的です。ぼくは今まで、スポーツ少年団は、ただ、好きなスポーツが上手くなることだけが目的だと思っていましたが、スポーツ少年団は、二人でも多くの子どもたちにスポーツの喜びを伝えることや、スポーツを通じて子どもたちのからだとこころを育てる組織を地域社会の中に」という目的があつたなんて初めて知りました。

また、スポーツ少年団は、小学生から、二十歳までの人が楽しめるというのが分かりました。なのでぼくも二十歳までスポーツをやっていたいなと思いました。

また、茨城県は団数が千四百九十一団もあり、団員数が三万九百二十二人もいることが分かり、日本の中でも、三番目に入っているということが分かり、茨城県はスポーツが盛んな県なのだと思います。

また、茨城県は団数が千四百九十一団もあり、団員数が三万九百二十二人もいることが分かり、日本の中でも、三番目に入っているということが分かり、茨城県はスポーツが盛んな県なのだと思います。

また、スポーツ少年団とは、一九六二年にできて、歴史のある組織なんだというのが分かりました。

そして、ジュニアリーダースクールは、決められたスポーツだけをやるのではなく、レクエーションもやるのが良いと思いました。

最後に、ぼくはスポーツ少年団に入っているの、これからもずっとスポーツを続けて、健康な体をつくっていききたいと思います。



第2回
十月二十三日～二十四日
県立白浜少年自然の家 行方市

久慈スポーツ少年団

宇佐美 結菜

私は、この一泊二日のジュニア・リーダースクールで多くのことを学びました。

一つ目は、講義で聞いた、「スポーツ少年団とは」「スポーツ少年団の活動について」「スポーツ

少年団のリーダーとは」です。黒板を写しながら、少年団に入る人が年々減っていることなどを知り、自分にも何かできないか、などを考えていました。

二つ目は、ドイツへ交流へ行った人達の話の聞いたことです。どうしたら、ドイツへ行けるのか。ドイツで何を話したのかを話してくれました。私もドイツへ行ってみたいと思いました。

私は、この二日間リーダーとして頑張りたいという気持ちが大きくなりました。私は、中学三年なので、来年からリーダー会へ入ることが出来ます。私も、リーダーが一生懸命レクリエーションなどを考えてくれているのを見て、私もリーダーをやりたいと思いました。これからは、少年団の子達にもリーダーに興味を持ってもらえるように、頑張りたいと思います。



第37回 日独スポーツ少年団 同時交流受入事業

8月4日～8月10日 茨城町

茨城スターズスポーツ少年団 田山 勝成

今回の日独交流の受け入れは初めてでしたが、団としては三回目の受け入れになりました。ホストファミリーの皆さんも最初は不安でどう接すればいいのか解らないようでしたが、日にちが経つにつれ、辞書を使ったり、インターネットの翻訳を使って会話をしようという工夫をしていました。

お別れの時はほとんどのホストが駅に見送りに来てくれ、最後は涙を流しハグをして、別れるのが辛かったです。

私達が受け入れたグループはヘッセン州のメンバーで、皆、素直で礼儀正しくスケジュールに対して積極的に取り組んでくれました。しかし中盤での富士山観光の時のことです、団長団が視察に来る事になり初日の夕方ホテルで合流し、楽しい夕食を一緒に摂ることができました。その夜通訳の大沢さんが来て他のグループでトラブルがおきたので、翌朝東京に戻りその対処に向かうと言う事で、副団長と大沢さんが別行動となりました。やはり百二十名の団体なので中に意思の疎通が上手くいかない人もいることを実感しました。

このような行動をしていると向こうからも近づいてこなくなりません。そうなるとお互いに考えが解らず関係がぎくしゃくしてしまいます。こういう関係にならないためには、自分から近づき言葉が解らなくても「貴方の話を理解したいんです」という気持ちを感じてもらおうことです。相手にこちらの気持ちを感ずてもらえれば今度は相手も自分の考えをなんとか伝えようとすると思います。こういう気持ちにお互いになればスムーズな交流が出来ると思います。

もうひとつ大切なことは、言葉を通して話をする事よりお互いに相手の文化や習慣を理解する事のほうが大事だと思います。また日本人特有のあいまいな返事も良くないと思います。出来る事はYES、出来ない事はNOこれをはっきり言わないと相手が不信感を持つことも感じました。

国際交流というのは、心身共に大変なエネルギーを使います。しかし、それだけのエネルギーを使ってもやる、意義のある事業であると感じます。一人でも多くの人、一人でも多くの子供達に体験をして貰いたいと思います。

予定では、団と交流をしているフランクフルトSGニードへ二〇一二年ホームステイに行くので、その時今回のメンバーと再会してきたいと思います。

第37回 日独スポーツ少年団 同時交流派遣事業

7月20日～8月11日 ドイツ

磯原バレーボールスポーツ少年団 岡 美樹

日独交流で私が学んだ事は、コミュニケーションです。私は英語があまり話せず最初の方は全然コミュニケーションをとれませんでした。スポーツを通してコミュニケーションが少しづつとれるようになってきました。また、一緒にスポーツをした後からは仲よくなつたので、自分の意見を伝えてみようと思ひ、辞書を片手に少しずつ、会話ま

ではいきませんが話せるようになってきました。スポーツの力ですごく大きいと思いました。

後一つ私が学んだ大切な事があります。それは「仲間」です。知り合いもいない、言葉もほとんど通じない国でたくさん

の不安やさびしさ、ストレスなどがたまり始めた後半、私はもう限界の近くにきていました。そんな私を励ましてくれたのは、グループの仲間でした。仲間に話を聞いてもら

らつたら、あと少しみんなとがんばろうという気持ちになりました。きつと仲間がいなかったら、こんな中身の濃い思い出にはならなかつたと思います。

今振り返ってみると、とてもいい経験をした、行ってよかったと思います。

私は、二〇一〇年七月二十一日から八月十日まで日独交流でドイツに行きました。事前研修を経て、いよいよドイツへ出発です。一日目はフランクフルトへ行きました。そこでは市長表敬訪問をしたり、りんご酒列車、クルーザーに乗ったりとても楽しかったです。そして次の日からは地方プログラムで一旦みんなとお別れです。

私たちは関東IIグループはロストックとノイルランデンブルクへ行きました。どちらのホストファミリーもとても良い家族でとても楽しかったです。地方プログラムでは、小さな子とふれあったり、ドラゴンボールをこいだりしました。ドイツカレッジでは日本とドイツの学校制度の違いも知りました。ファミリーデーにサイクリングに行ったりとても楽しかったです。普段なかなか出来ない収容所見学。新聞にラジオ出演も出来ました。カルチャーショックもあつたけどとても楽しかったです。

最後はベルリンで全体プログラムです。さよならパーティーは国会議事堂のような場所も見学できとても勉強になりました。ここには全て書ききれないけど、この交流に参加することが出来て本当によかったです。

平成22年度 関東ブロック リーダー研究大会

H A Iスポーツ少年団 中野 綾奈

今回の研究大会は、私にとって忘れられない大会となりました。「これからの研究大会の方向性を決める」という重大な課題は、私に限らず、参加したすべてのリーダーにとって、決して楽しいだけのものではなかったと思います。しかし、これからの関東のリーダー研究大会に少しでも自分の意見が反映されていくのだと思うと、不安と同時に喜びややりがいを感じました。

課題の他にも、研究大会で得られたことがあります。それは他県のリーダーとの交流を通して感じたことです。自分がなりたいと思つていたリーダー像の外にも、理想になるようなリーダーや指導者の先生方がたくさん存在するという事です。茨城県の中にも素晴らしい先生はたくさんいらっしゃいますが、他県にも同じくらい尊敬できる方がたくさんいらっしゃいます。それは、このような研究大会などを通して初めて知ることが出来るのではないのでしょうか。

県外のリーダーと交流をするという事は、私自身にとってとてもプラスになる経験でした。研究大会の中の話合いなどはもちろんですが、ウォークラリーや食事など、どのプログラムをとつても充実した二日間を過ごすことができました。これからも茨城県のリーダーであるということと共に、関東ブロックのリーダーであるという意識をしっかりと持ち、リーダー活動をしていきたいと思ひます。

今回の研究大会は、私にとって忘れられない大会となりました。「これからの研究大会の方向性を決める」という重大な課題は、私に限らず、参加したすべてのリーダーにとって、決して楽しいだけのものではなかったと思います。しかし、これからの関東のリーダー研究大会に少しでも自分の意見が反映されていくのだと思うと、不安と同時に喜びややりがいを感じました。

第27回 **スポーツ少年団 駅伝競走大会**
 11月27日
 笠松運動公園 陸上競技場 周回コース

男子の部 優勝

東石川ミニバスケットボール
 スポーツ少年団

野口 みずき

毎日ミニバスの練習に明け暮れていた子供達。本格的に駅伝の練習を始めたのは、大会まで一ヶ月を切る十一月に入ってからでした。

毎年上位入賞!!という伝統を守り続けられるか?という親の不安とは裏腹に、子供達は実生き生きと練習に取り組んでいます。

厳しい寒さの中での朝練や放課後練習、休日を返上しての長距離練習。毎日とてもハードな練習が続いているのに、子供達は弱音を吐かず、むしろ走る事を楽しんでる様です。そして登録メンバー以外の団員も、自ら進んで練習に励みます。

大会当日は、歴代選手の名前が書かれている歴史あるタスキを繋ぎます。一区河野君・二区野口君・三区安藤君・四区森山君・五区鈴木君。そして、選手以外のメンバーも、選手と一緒に声掛けながらコース沿いを走ります。そして一位でゴールテープを切る瞬間、皆で抱き合って喜び合いました。見事五年ぶり六度目の優勝です。東石川ミニバス六年生全員で勝ち取った優勝です。

今回の駅伝を通して、子供達は更に大きな成長をとげました。

御協力・御声援頂いた皆様、本当に有難うございました。 本



女子の部 優勝

AT・STARS
 スポーツ少年団

三浦 早貴

私は十一月二十七日に「茨城県スポ少駅伝大会」に出場しました。私は、四年生の時から出場していて、二年連続優勝していました。私達のチームは六年生五人で出場することにしました。私以外は、初めての出場だったので、とても緊張感が伝わってきました。

一区が走り終わり、順位は九位でした。二区は三位、三区は

第46回 **県スポーツ少年団大会**
 県立中央青年の家
 7月23日~7月25日
 土浦市

成沢バドミントン
 スポーツ少年団

一関 舞子

私は、野外活動を終えて、たくさん体験をしました。最初は、班で知らない人ばかりでした。でも、この野外活動を終えるころには、もうみんなと友達でした。私は、班の人だけでなく、他の班の人とも交流を深められました。そのおかげで、自分が困った時は助けてもらい、相手が困っていたら助けてあげられました。最初は、名前も何も知らない人たちとのきよがちがまっっていくか?と心配でした。でも、みんな優しく、たくさん声をかけてくれたりしました。はん合すいさんは、準備片付けまで、きちんと助け合い協力してできました。

これからは、この交流した人たちの体験を活かし、ずっと助け合い、協力しながら、少年団などをひびいていきたいです。また、協力、感謝することを学びました。



この三日間、たくさんの事がありました。オリエンテーション、飯ごう水さん、みんな一生懸命がんばっていました。仲間と一緒にこんなに暑い中、協力し助け合ってきたみんなを見て元気をもらい、私もこの三日間を楽しく過ごせたと思います。家や学校とまったく違う環境で、他の少年団の団員と笑って遊んでいたみんなは、とても楽しそうでした。夏休みが始まってすぐすぎな思い出ができて良かったです。

私はこの三日で、協力することの大切さを学びました。私も他人としっかり協力できるような心がけていきたいです。もしまたこんな大会に参加することになったら、次はもっと自分でも考え行動できるようにがんばろうと思います。

箭内 恵

一年のあゆみ



県スポーツ少年団スポーツ大会 H22.6~H23.1 (県武道館他)



第1回ジュニアリーダースクール H22.6 (県立中央青年の家)



県スポーツ少年団大会 H22.7 (県立中央青年の家)



一年のあゆみ



関東ブロック競技別交流大会 H22.7(山梨県)



スポーツ少年団駅伝競走大会 H22.11 (笠松運動公園)



栃木県・茨城県スポーツ少年団リーダー交流会 H22.12 (日立会瀬青少年の家)



スポーツ少年団女性指導者フォーラム H23.1 (レイクエコー)

ガンバツテいきます！

県北 日立陸上クラブスポーツ少年団

代表指導者 五島 民博

日立陸上クラブは、現在小学生七十九名、中学生十一名の合計九十名で楽しく活動しています。練習日は、通常毎週土曜日です。その他大きな大会の前には、特別練習を行っています。昨年団員が百名を超えたため、指導者も十一名体制で充実を図っています。

入団者には、当クラブの方針について説明し、それを実践することで、楽しくまた実績をあげられるようになってきています。第一に、大きな声で挨拶ができること。どんなに速く走っても挨拶が出来ない子供では困るからです。次に、他の学校の友達を作ること。多くの学校から集まっており、新しい友達を作る絶好のチャンスだからです。最後に、走りの基礎を学ぶこと。陸上競技というのは、すべてのスポーツの基本だからです。

当クラブは、今までに全国小学生大会で、男子400mリレーで二回、女子400mリレーで五回の入賞を果たしています。

今年には県予選で見事に男女と

も400mリレーで優勝し、八月に東京国立競技場で行われた全国大会に出場しました。これも猛暑の中で一生懸命練習し、頑張った結果だと思えます。走るのが好きで、もつと速く走りたいと努力すれば、必ず結果はついてくると改めて痛感しました。



水戸 水戸市ダイビングスポーツ少年団

代表指導者 吉原 直博

水戸ダイビングスポーツ少年団は、少人数ながら小学生から高校生までの精鋭たちが、日々練習に励んでいます。

練習は、水戸市民プール・笠松運動公園プールで活動し、冬季になると水戸市民体育館でトランポリンや陸上トレニングを行っています。

飛び込み競技は、十メートルの高さや一瞬でありなす回転・捻り技が見どころであり、他の競技にはない達成感や感動を味わうことができるスポーツです。子供たちは、その達成感や感動を求めて厳しい練習にもくじけず頑張っています。

さらに活動を通して、年齢の異なる集団の中で規律や協調性相手を思いやる心を育てていくように指導者もガンバツテいきます。



鹿行 潮来市ボートスポーツ少年団

代表指導者 小高 浩孝

全国初のボート・スポーツ少年団が誕生したのが平成二十年八月。活動も三年目とまだまだ手さぐりではありますけど、活動の場をボート環境の整った潮来市の北利根川とし、スポーツ少年団の理念に習い、スポーツを通じて「ここから」の健全育成を目指し、毎週土曜日の午前中に活動しています。

現在、中学生六名、小学生（四年生～六年生）男子十一名、女子五名、計二十二名の団員で構成され、第一期生も中学生になり、スポ少に席を置きながら、部活動（ボート部）で活躍中です。

小学生のボート競技はあまり対外レースがないため、市内で行われる最大イベントである「ITAKO City Regatta」に目標を置き、日々練習を重ねています。

また、昨年からは、戸田オリンピックコースにて、他のクラブチームとの交流レガッタが実現でき、ボートでの活躍の場も増えています。

その他、駅伝大会への出場、年2回の奉仕活動、手作りのクリスマス会、豚汁を囲みながら、保護者、指導者、中学校の先生（ボート部）方との交流会等を

行い、ボートを通して、感謝の気持ちと諦めないことの大切さを養ってほしいと願って、今後五年、十年と末長く続くよう皆で協力し合いながら頑張っています。



県南 美浦ジュニアソフトテニススポーツ少年団

代表指導者 小柳 崇

昨年、三十周年を迎えた当団は、指導者と保護者が子どもに対して情熱を持ち、気持ちを一つにして活動をしています。毎年秋には「美浦村スポーツフェスティバル」の一環として関東近県から総勢



五百名もの選手が集る美浦村小学生ソフトテニス大会を開催し、交流を通し心身の健全な元気な子供の育成を目標として活動しています。

スポーツを始めるきっかけは何であれ、楽しみながら頑張って練習している子供達の笑顔、それを指導者はエネルギーにし、今後もその笑顔を見つめ、時には子供・保護者と共に悔し涙を流しながら喜びと感動をもらい、変わり行く子供達の生活環境の支えとなり活動を続けていきたいと思えます。

県西 古河市ボクシングスポーツ少年団

代表指導者 中山 栄治

茨城県では、おそらく初めてのスポーツ少年団、古河市ボクシングクラブの部員は、現在、八名。日頃はボクシングジムで毎日練習しています。

基本的には、エアを中心として、心と体を鍛える事を目指しています。ボクシングは、拳闘と表わされるように、一対一の対戦であり、子供達の体以上に冷静さ、忍耐力、勇気などの精神力の育成が、とても大切です。日々の練習の中でも、常に正しい打ち方やルールをきちんと守るフェアプレイ精神を重視しています。

スポーツには、闘争心という熱い心が、とても大切です。特に、ボクシングでは、熱い心の持ち様が重要です。痛いとかかっている試合に立ち向かって行く勇氣、カッとなって冷静さを失わない強い力、忍耐、相手に対する思いやり、礼節。身体も又、成長期の子供達だからこそ、しっかりとした指導の元に、日常の生活の中でも役立つリズム感や基礎体力の向上を目指しています。

これからも、子供達と共に、ボクシングの楽しさ、すばらしさを広め、たくさんさんのクラブが

生まれてくれればうれしいです。



質問コーナー Q&A

普及・広報委員会

副委員長 野田 洋平

Q 子どもたちの生活の中に遊びが無くなり、地域社会でのイベントではお客さんとしての位置づけが固定化し、自分自身が主体者としての立ち位置が希薄になってきています。その結果、隣近所の子どもの集団は形成できず、子ども達同士での遊び集団は壊滅したように思います。三角ベース、馬跳び、鬼ごっこ、

ベーゴマやメンコ、大縄跳びも姿を消しました。子ども達だけで形成してきた子ども達同士の世界がどこかへ姿を変え、運動会の前になると何人かの子ども達が集まり、徒競争の練習風景が見られたのも今は昔となつてしまいました。

A 昔に郷愁ではありません。子ども達の世界の中に身体活動が少なくなったことが、今の子ども達の体力や技術、身体活動のスキル形成、ストレス解消にマイナスに働いていることを心配しているからです。思い切り子ども同士がぶつかり合い、汗を流した経験は人間形成、身体形成、心の進化には無くてはならないものだからです。

子ども同士の多様な精神的、身体的交流は現代でも必要不可欠な要素です。もう一度子ども主体の活動が地域で目に見える活動に成長し拡大することを期待し、少年団活動がその手掛かりとなることも期待できます。

子ども達の体力測定や体育の授業を見ていると、奇妙な光景に出合います。体力測定は自分の持てる力を十分に発揮することが要求されます。ところが友達の結果や能力を気にし、自分の力を十分に発揮しない子どもが多数いる光景です。友達と一緒にゴールしたり、友達の記

録に右にならえしたり、学年の平均記録に達したら終了してしまったりする。友達や先生の顔を見ながら自分の力を表現するだけで、本当の自分の力を発揮出来ない子、発揮しようとしてもいない子どもには能力に優れている子どもに多いように思います。

スポーツの世界では自分の能力を十分に表現出来ない選手はメンバーにもなれません。子どものうちから純粋に努力をし、練習を重ね、全力でぶつかる態度を強く持つことのトレーニングが絶対に必要です。日頃の練習やゲームの中でそのことを要求し、自分を造る重要な要素であることも示唆すべきでしょう。集中心を欠き、他に迎合し、自分喪失をしている活動は厳に戒めるべきであると思えます。

少年団の指導者、保護者の皆さんは、団員、自分の子どもが能力を十分に発揮する練習方法、指導助言、チームの和や編成などの環境を整えることが大切であり、その環境の中で十分能力を発揮できるように話をすべきです。

遊びの心や遊びそのものが団活動を豊かなものにし、全力発揮がさらにレベルの高い体力、技術獲得に貢献し、団活動を充実させることを期待したいと思います。

第18回 全国スポーツ少年大会に参加して

吉田サッカースポーツ少年団

木村 元輝

ぼくは、全国大会の行われる島根県に行く時、みんなと友達になれるか不安がありました。

そんな気持ちの中、僕は初めて四日間、一緒に過ごす友達に会いました。その時、僕に初めて声をかけてくれたのは、沖くんです。沖くんは、バレーボールをやっています。その時、僕の頭の中に不安という文字は、なくなりました。その後も、班のみんながいつばい声をかけてくれました。

ぼくの、一番楽しかったことは、SHIPS活動です。ぼくは、班のみんなと協力して結果はダメだったけれど、班のみんなの仲の良さは、どこの班にも負けないと思います。

ぼくには、もう一つ楽しかったことがあります。それは、自由時間です。ぼくは、自由時間の時に、いっぱい友達をつくりました。その時、ぼくに話しかけてくれた人が三人います。一人目は、森藤くん。二人目は、藤田くん。三人目は、佐藤くんです。その三人には、とても感謝しています。

ぼくは、この班の友情は、世

界一の宝物だと思います。班のみなさん、指導者の方々、リーダーのみなさん、四日間ありがとうございました。



第41回 関東ブロックスポーツ少年大会に参加して

マリーンキッズスポーツ少年団

神永 和泉

私は、第四十一回の関東ブロックスポーツ少年大会が初めての参加だったので、少し不安もあったのですが、みんなが声をかけてくれて、すぐに不安は消えてしまいました。

二泊三日のこの大会中、楽しい事ばかりでしたが、最も心に残った事は、キャンプファイヤーです。キャンプファイヤー

では、みんな練習したダンスなどをしたり、マイケルコールでは、出したことのないほどの大声を出してさけんだり、笑ったりして。最後には、炎で「挑戦」の文字を作りました。

野外炊飯では、みんなで協力し、火をつけ、ご飯を炊いたり焼きそばを作る係と、たくさん材料を切る係に分かれて作りました。みんなで作ったご飯は、少しおこげがあつて、おいしかったです。

夜も、みんなでおしゃべりしたり、ふざけたりして、みんながおたがいの事をわかりあえた気がします。

今回のような体験は、私にとつて、初めてのことで、すごくいい経験になりました。これからも、この大会で学んだ事を思い出して、いろいろな事にチャレンジしていきたいです。

マリーンキッズスポーツ少年団

酒井 夏鈴

私は、関東ブロックスポーツ少年大会で楽しかったことが三つあります。

一つ目は、ポイントラリーです。いろんな所に行つて大縄とびやなぞかけなどがありました。でも私はみんなの足を引っぱつて、めいわくばかりかけてしまいました。今度来る時は、めい

わくをかけずにがんばりたいです。

二つ目は、創作活動です。創作活動はまが玉作りをしました。まが玉作りはあまりうまくいかず、難しく、とても、苦ろうしました。時間内に終わらなくて少しくやしかったです。

三つ目は、キャンプファイヤーです。キャンプファイヤーは、レクリエーションをしたりして遊びました。次に、ダンスに移り、ダンスをおどりました。レクリエーションとダンスはともおもしろかったです。

来年は中学生です。また、スポーツ少年大会にきたいな一っと思えました。中学生としての自覚を持つてがんばりたいです。



編集後記

今年も編集会議の机には目標に向かって伸び伸びと活動する団員達のスナップ写真と、熱意溢れる原稿が寄せられました。日頃の団活動に係る指導者や母集団の皆様のご苦労とご努力には頭が下がる思いです。

活躍するリーダーや一生懸命な団員の様子に目を細めつつ、これらの体験が彼らを育て、次の世代を担う指導者に成長してほしいと願いながら、編集作業に当たりました。

本号も紙面一杯に生き生きとした少年団活動をご紹介します。

普及・広報委員会

- 委員長 鈴木 孝子
- 副委員長 野田 洋平
- 委員 友部 静江
- 小鹿 威郎 糸賀 睦夫
- 鈴木 修一 水野 幸男

1000万人の保険 小さな損金・大きな補償

スポーツ安全保険

文化活動、ボランティア活動でもご加入いただけます。

★5名以上の団員が対象

■大人 (高校生以上) のスポーツを行う団員 (フットサルチーム、マラソンクラブ、テニスサークルなど)	料金 1人 1,600円 (年費内)
■文化・ボランティア・地域活動を行う団員 (合唱団、カラオケ、料理教室、趣味集の会など)	料金 1人 600円 (年費内)
■子供 (中学生以下) の団員 (スポーツ少年団、学童、地域子ども会など)	料金 1人 600円 (年費内)

掲載内容など、詳しいことはこちらまで

(財)スポーツ安全協会 茨城県支部
〒310-0911 水戸市見和 1-3-3-3 TEL: 029(300)4710
<http://www.sportsanzen.org>